

# 羽束山から山田ダムを訪ねる

第 69 回武庫川エコハイク

2013.01.12..エコグループ・武庫川

**武庫川** 全長 65km、流域面積 500km<sup>2</sup> 篠山市、能勢町、三田市、神戸市北区、西宮市、宝塚市、伊丹市、尼崎市の 7 市 1 町を流域に持ち県内有数の人口・資産を抱える 2 級河川である。「武庫川」の名は下流の右岸が武庫郡であり、武庫郡は日本書紀にある「務古水門（むこみなと）」からとか、浪速から見て「向こう」にあるからとか諸説がある。

2 級河川だが流域に阪神地帯を抱え流域人口では全国第 10 位である。「阪神間の母なる川」である。上流から三田盆地までは緩やかに流れ、中流には武庫川渓谷で V 字谷になる一風変わった川である。この渓谷は六甲山の隆起とともに武庫川に洗刻された先行河川である。ここに県営ダムを作る計画があったが豊かな自然環境を破壊することで反対する市民運動が持ち上がり、県は流域住民を含めて武庫川流域委員会を設置して 2 年半にわたり協議した結果、平成 22(2010)年 10 月、ダムは検討に時間がかかることから、20 年間はダムによらず流域対策と堤防強化、河道掘削で治水対策を実施することとなった。

**羽束川(はつかがわ)** 武庫川最大の支流で、源流は大阪府能勢町天王の深山(みやま、標高 791m)。途中篠山市後川(しつかわ)、三田市高平を経て宝塚市波豆で波豆川を合流して千苺水源地に注ぐ。武庫川には武庫川峡谷の直上流の神戸市北区道場で合流する。流域面積 95 千 km<sup>2</sup> (武庫川流域の 19%)、長さ 32km、高低差 360m で武庫川本流よりも勾配が大きい。「羽束」は「波都加之(はづかし)」から出、「泥部(はづかしべ、石の職人)」の住む所という説がある。「波豆」の語源も同意と考えられる。このあたり北摂最高の石造物の宝庫であることからうなずけないこともない。古来の伝説によれば、自然にせき止められて高平盆地は湖水化していた時代があったといわれている。その地形から察すると、部落において川を挟んで段丘が西と東から相対している部分があり、またその下流の羽束山の東麓にも狭隘部があるので、このあたりが堰き止められていたのではないか。

**木器(こうずき)** 木地師が住んでいたことからともいわれるが詳細は不明。

**木器遺跡** 上槻瀬駐在所裏の水田にある土盛りが遺跡跡で石室が残る。古墳時代後期(約 1400 年前)のもの。

**羽束山(はつかやま)** 標高 524m。西北側に宰相ヶ岳 501m、南側に甚五郎山 432m がある。山容に特徴があり、鍋を伏せたように見えることから「なべやま」、甚五郎山と合わせて鯨に見えることから「くじらやま」とも呼ばれる。山頂からの眺望は抜群で新年には初日の出を拝む人たちが賑わう。

山上には当初山岳寺院であった香下寺は最盛時に七堂伽藍十二坊があり、南北朝時代には城砦化していたという。南北朝時代に戦火にあい、今は山上に観音堂があり十一面観音菩薩像が安置されている。また鐘楼には大きな釣鐘がある。また羽束神社(鹿舌神社)には少彦名神を祀り香下の鎮守社である。

**香下(かした)** 山田川流域に広がる香下寺に由来する地名。

**香下寺(こうげじ)** 飛鳥時代の敏達(びだつ)天皇の御世(572~585)百済の高僧日羅(にちら)上人が開山と伝えられる(一説には印度の渡来僧法導上人ともいう)。日羅上人が瀬戸内海を航行中、羽束山に雲間から日光が差したことから羽束山に籠り、けや木の木から十一面観音像を彫った。すると像から芳香が漂ったことから「香下」と名付けられたという。

当初の南朝の後村上天皇、後小松天皇の直願所であったため、香下が京都から播磨への要衝であったこともあり、南北朝の内戦期に戦乱に巻き込まれ山頂の城砦化した堂宇は戦火に会い、その後は失火もあり寺勢は衰退した。後には三田城の東北・鬼門に当たり、九鬼藩の厄除け祈願所として代々庇護を受けた。参詣道には丁石道が整備され、山麓の登山口には八王子神社がある。摂津三十三観音霊場第十一番札所。

**香下合戦** 太平記に南北朝時代南北朝の軍勢が香下城を中心に激戦が行われた。香下寺は羽束山の山上の本坊を中心に城砦化されており南朝方の拠点となっていた。建武 5(1338)年 11 月 20 日夜北朝の喜志義氏に夜襲され香下城ほかに籠城する南朝の湯山左衛門二郎が討ち取られ城は陥落した。有馬郡の戦史上最も激しい戦いが行われたところといわれ、現香下寺西方約 200m に南朝の討ち死にした武士の群集火葬古墳がある。

**山田川** 高平ナナマツの森の裏山行者山付近を源流とし、市之瀬、志手原、有馬富士カンツリークラブ、香下、山田ダム、山田、桑原を経由して武庫川に合流する。

**有馬富士カンツリークラブ** 昭和 40(1965)年オープン。面積 80 万 m<sup>2</sup>。

**山田ダム** 三田市の城水源。1968 年竣工。湛水面積 5 ヘクタール。貯水量 174 千 m<sup>3</sup>。堤高 15.8m。堤長 58m。三田市の事故水源のひとつで浄水場は古城浄水場。

**桑原・感神社** 素盞鳴命を祀る。京都八坂神社から分霊したと伝えられる。桑原の氏神。

**桑原ときうり**(伝承) 感神社の紋所は八坂神社と同じ木瓜(もっこう)紋。木瓜紋はきうりの輪切りに似ており、かつてきうりの輪切りを食べた村人が腹痛を起こし「神紋きうりを食べると神罰が当たる」といわれるようになり、桑原ではきうりを食べなくなり、作りもしないという。きうりを食べるときはたてに切るともいう。

**桑原・欣勝寺** 10 世紀末に多田源氏の祖源満仲の開創された寺といわれ、雷除けで有名。寺には大蛇の頭骨が残されているがこれは女の業が大蛇になり裏山の池に住んでいたのを高僧が説得され成仏し頭骨が残ったという。この大蛇の頭を厨子から出すと大雨が降り、観念のときは雨乞いにこれを出すすと奇蹟があるといわれている。

**くわばらくわばら欣勝寺**(伝承) 雷の子どもがこの寺の井戸に落ち、「助けてくれ」というのを和尚は日頃から雷に迷惑をかけられているので、二度と桑原に雷を落とさないように約束させて帰した。これ以降、「くわばらくわばら欣勝寺」といえば雷は落ちなくなった、という。

**桑原の耕地整理** もともと武庫川沿いの地区は湿地帯であったという。明治 40 年代初めに桑原地区で耕地整理が行われ美田に変わった。記念碑が欣勝寺前にある。

## 大阪湾フェニックスセンター助成